



HMCは、思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等にわたる人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者による部局横断的な新たな研究協創のプラットフォームを目指しています。

05
2022 Winter



Humanities Center News Letters

企画研究・公募研究の活動報告
公募研究の新規採択のお知らせ
オープンセミナー実施報告
新刊紹介

ヒューマニティーズセンター（HMC）とは

人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者により、部局横断的に新たな研究協創のプラットフォームを目指す連携研究機構。

その対象は思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等、広範に及びます。



HMC の 2 つの部門

LIXIL Ushioda East Asian Humanities Initiative

(LIXIL 潮田東アジア人文研究拠点=LUI)

株式会社LIXILグループおよび潮田洋一郎氏の財政的支援によりHMCで展開される、日本を含む東アジア研究を一つの柱とする新たな国際人文研究拠点。連携研究者はフェロー（兼務教員）として HMCに所属。

「企画研究」複数の連携機関所属研究者が協働する共同研究の推進

「公募研究（A）」連携機関所属の個人研究者の海外連携等を後押し

「公募研究（B）」オンライン含む国際研究集会の開催支援

Humanities Liaison

「ヒューマニティーズリエゾン」は、2020年度に新設された部門。研究支援人材（URA）を配置し、既存の枠組みを脱してより広範に研究活動を展開させていくことを目指します。



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

ロゴの四角形は「情報」を表しています。また濃色のオレンジの四角形は「熟成した知識」を示します。各連携部局が連なり、情報を共有しながら、熟成した知識をHMCへ集約させるという理念を表現しています。

ヒューマニティーズリエゾン部門研究プロジェクト

「アジアの未来」研究プロジェクト

9月から新たにリエゾン部門での協働研究がスタートしました。

研究代表：松田陽（人文社会系研究科）

参画教員：菅豊（東洋文化研究所）、本田洋（人文社会系研究科）、祐成保志（人文社会系研究科）

参画学生：Lee Kah Hui（人文社会系研究科）

今日のアジアの都市においてどのような種類・性質の過去が郷愁の対象となり、そのことによっていかなる社会的変化が生じているかを考査する研究。現在のアジアの都市における過去の位置付けを探ることを通して、アジアの都市の未来を考えようという試みです。研究成果として動画を制作するため、現在、東京都内の各所に見られる“ノスタルジア”を撮影中。Google Arts & Culture上で公開予定ですので楽しみに。



中銀カプセルタワービルでの撮影風景

企画研究

HMCの立案による3～4年で行う共同研究。学内外の様々な機関と連携しながら3つのプロジェクトが実施されています。

現代作家アーカイヴの構築と発信

研究代表：武田 将明（総合文化研究科）

参画教員：阿部公彦（人文社会系研究科）、佐藤麻貴（総合文化研究科）

梶谷真司（総合文化研究科）、岩下弘史（HMC）

現代の日本語文学を代表する作家の生の声を記録に残し、国内外の多くの人々に現代日本文学の意義を伝えることを目的として構築される「現代作家アーカイヴ」。飯田橋文学会（平野啓一郎氏他）とのコラボレーションで、現在活躍中の作家が自身の創作活動について語るインタビューを実施。11月19日の第23回文学インタビューでは作家・町田康氏をゲストに招き公開収録が行われました。



行動する人の歴史：力はどこからくるか

研究代表：松方冬子（史料編纂所）

参画教員：稲田奈津子（史料編纂所）、三枝暁子（人文社会系研究科）

永井久美子（総合文化研究科）、井坂理穂（総合文化研究科）

後藤春美（総合文化研究科）、水野博太（HMC）

個人が次の一步を踏み出す際に、先人がどうやって生き、変化に対応してきたのかを参考にできるよう、歴史を「動詞」から捉えるという全く新しい歴史の語りの構築を目指す企画研究。

8、10、11月に研究会を実施。7月のオープンセミナー「語る力が権力を作る？—歴史からの問い—」を収録したブックレットも、刊行に向けて編集中です。

大江健三郎氏寄託資料に関する基礎的研究

研究代表：安藤宏（人文社会系研究科）

参画教員：唐沢かおり（人文社会系研究科）、塚本昌則（人文社会系研究科）

阿部公彦（人文社会系研究科）、阿部賢一（人文社会系研究科）

大向一輝（人文社会系研究科）、村上克尚（総合文化研究科）

武田将明（総合文化研究科）、和田真生（HMC）

2021年1月に人文社会系研究科に寄託された、大江健三郎氏の自筆原稿の整理、データベース化を進め、研究基盤を構築する基礎的研究。近年進展しつつある文学者の自筆原稿に関する資料整備の流れに沿い、今後の草稿研究に新たな可能性を提起します。およそ18,000枚に上る膨大な量の原稿・校正を、専門スタッフが着々と整理中。9月には大江氏の元担当編集者など関係者による研究会が開催されました。



右：関係者による研究会では、寄託された自筆原稿の整理現場も見学
左：整然と棚に収められた資料



公 募 研 究

(A) 個人研究

連携部局所属教員を対象とする公募制度を通じて、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、法律、政治、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野に関して、国外から研究者を長期間招聘して行なわれる共同研究、または個人で行なわれる研究です。

2021年10月～2022年9月分において、下記13件の採択を決定しました。

「関東大震災における東大医学部外科の役割」

鈴木晃仁（人文社会系研究科）

「デジタル技術を用いた文化資源の多次元アノテーションの研究」

中村雄祐（人文社会系研究科）

「情報通信法制の標準化」

巽智彦（法学政治学研究科）

「比較文学比較文化研究の理論と教育の相互作用に関する総合的検討」

今橋映子（総合文化研究科）

「日本近代文学と口絵・挿絵の有機的関係に関する研究」

出口智之（総合文化研究科）

「海保青陵の主要著作の共同注釈」

徳盛誠（総合文化研究科）

「近代男性作家像の成立と前近代—その連続性と不連続性」

永井久美子（総合文化研究科）

「人間、言語、場所：ジャック・ラカンの精神分析思想」

原和之（総合文化研究科）

「明治後期における報道表現の変容」

前島志保（総合文化研究科）

「場所を共に耕す—「故郷」を初めて知るための対話」

青山和佳（東洋文化研究所）

「オランダ東インド会社による「宮廷旅行」の比較研究—日本、マラバール、ペルシア—」

大東敬典（史料編纂所）

「体言化の言語類型論：性、数、類別詞および定性を中心に」

長屋 尚典（人文社会系研究科）

「アジアの都市空間における郷愁の表出と文化遺産の創出：東京とシンガポールの事例を中心に」

松田陽（人文社会系研究科）

(B)
国際研究
集会
開催助成

日本国外の学術機関に所属する研究者を招聘し、国内で開催される人文学および隣接諸学分野（思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等）の国際研究集会を支援する事業です。

2021年7・11月に下記のシンポジウムが開催されました。

「東アジア諸王室における礼的〈逸脱〉の諸相」

2021年7月26日（オンライン開催）

〈報告〉

鄭雅如（台湾 中央研究院歴史語言研究所）

「胡風と漢礼—北魏鮮卑諸王の婚姻諸相の分析」

李貞蘭（韓国 忠南大学校国史学科）

「高麗時代の龍孫意識と王室儀礼」

〈コメント〉

豊島悠果（神田外語大学外国語学部）

稲田奈津子（東京大学史料編纂所）

〈通訳〉

郭珮君（台湾 中央研究院中国文哲研究所）

植田 喜兵成智（学習院大学東洋文化研究所）

〈司会〉

伴瀬明美（大阪大学大学院文学研究科）

【主催】

JSPS科研費「東アジア諸王室における「后位」儀礼比較史の協業的研究」（代表者：伴瀬明美）

東京大学ヒューマニティーズセンター

【共催】

大阪大学大学院 文学研究科

東京大学 史料編纂所

JSPS科研費「東アジア儀礼文化の比較史的研究—「物品目録」からの復元的考察—」（代表者：

稲田奈津子）

The poster is for an international research gathering titled "東アジア諸王室における礼的〈逸脱〉の諸相" (Ritual Deviations in East Asian Royal Courts). It is organized by the International Research Association (国際研究集会). The event is scheduled for July 26, 2021, from 13:00 to 17:30, and will be held online via Zoom. The registration deadline is July 23, 2021, with a link provided: <https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/open-research/b/ii-deviation/>. The poster lists the following speakers and topics: 鄭雅如 (Zheng Yaru) from the Institute of History and Linguistics, Academia Sinica, presenting "胡風と漢礼—北魏鮮卑諸王の婚姻諸相の分析" (Hu Wind and Han Rites—Analysis of the Marriage Rituals of Northern Wei Xianbei Rulers); 李貞蘭 (Lee Jeong-ran) from Chungnam National University, presenting "高麗時代の龍孫意識と王室儀礼" (Dragon Son Consciousness and Royal Rites in the Goryeo Era); and 郭珮君 (Guo Peijun) from the Institute of Chinese Literature and Thought, Academia Sinica, presenting "東アジア諸王室における「后位」儀礼比較史の協業的研究" (Collaborative Research on the Comparative History of the Rites of the Empress Dowager in East Asian Royal Courts). The poster also mentions the co-organizers: the Center for Humanities, University of Tokyo, and the Faculty of Letters, Osaka University. The poster features a QR code for registration and a small illustration of a person in traditional East Asian attire.

The Indian Ocean, 1600-1800:

Exploring the Frontier of Maritime History in Japan (Part I)

17-18世紀のインド洋 ―日本をめぐる海域史研究の広がりのために― (パートI)

2021年11月26日 (オンライン開催)

【プログラム】

Chaired by Norifumi Daito

Introduction: Fuyuko Matsukata

Alicia Schrikker, "Eighteenth century lives, from the fringes of the Dutch East India Company"

Discussant: Mihoko Oka

Lennart Bes, "Embassies, etiquette, and embarrassments. Dutch reports on court protocol and diplomatic insult in early-modern South India"

Discussant: Travis Seifman

General Discussion

Closing Remark: Fuyuko Matsukata

【主催】

東京大学史料編纂所共同利用共同研究拠点特定共同研究

(海外史料領域)「モンスーン文書イエズス会日本書翰

VOC文書EIC文書の分野横断的研究」

【共催】

東京大学史料編纂所

東京大学ヒューマンティーズセンター

維新史料研究国際ハブ拠点

The poster is for a workshop titled "The Indian Ocean, 1600-1800: Exploring the Frontier of Maritime History in Japan (Part I)". It is held online via Zoom on 26 November 2021, from 17:00 to 20:00 (JST). The chair is Norifumi Daito. The introduction is by Fuyuko Matsukata. The main speaker is Alicia Schrikker, discussing "Eighteenth century lives, from the fringes of the Dutch East India Company". The discussant is Mihoko Oka. Lennart Bes discusses "Embassies, etiquette, and embarrassments: Dutch reports on court protocol and diplomatic insult in early-modern South India". The discussant is Travis Seifman. The general discussion is moderated by Fuyuko Matsukata. The closing remark is also by Fuyuko Matsukata. The poster includes a QR code for registration and a link to the Zoom meeting: <https://tinyurl.com/wkz8qf8>. The registration deadline is 11月23日 午後5時 (11月23日 午後5時) and the meeting ID is 811 414 997 445 (811 414 997 445).

最新のイベントは
随時、HP・SNSで
お知らせいたします

コラボレーションイベント

奈良県立大学 地域創造研究センター キックオフ連続シンポジウム第2回：

「アフターコロナの大学と地域創造―地域創造からの知的創造」

奈良県立大学地域創造研究センター主催、これからの大学と地域創造のあり方を捉え直すシンポジウムがHMCの協力で開催されました。

オープンセミナー

公募研究、企画研究に参画しているフェローを中心に随時セミナーを開催しています。一般公開形式、参加費は無料です。2021年7月～12月にはこちらのオープンセミナーが実施され、各回100名を超える方が参加してくださいました。



■ 第38回 2021年7月9日

語る力が権力を作る?—歴史からの問い—

松方 冬子（東京大学史料編纂所）

水野 博太（東京大学ヒューマニティーズセンター）

後藤 春美（東京大学大学院総合文化研究科）

井坂 理穂（東京大学大学院総合文化研究科）



■ 第39回 2021年7月23日

徂徠学派の文学と〈名づけ〉

高山 大毅（東京大学大学院総合文化研究科）

ディスカッサント：小林 ふみ子（法政大学文学部）

■ 第40回 2021年8月27日

特別回・第2回HMC-TCJSジョイントセミナー

「死の影」と向き合う——近代日本の経営と文学

清水 剛（東京大学大学院総合文化研究科）

ディスカッサント：齋藤 希史（東京大学大学院人文社会系研究科）

共催：東京大学現代日本研究センター（TCJS）



■ 第41回 2021年9月3日

東アジアのなかの墓誌

稲田 奈津子（東京大学史料編纂所）／ 田 衛衛（東京大学史料編纂所）

植田 喜兵成智（学習院大学東洋文化研究所）

コメント：王 海燕（浙江大学歴史系）

主催：東京大学ヒューマニティーズセンター・東京大学史料編纂所

共催：科学研究費基盤研究（B）「古代日本と朝鮮の金石文にみる東アジア文字文化の地域的展開」（研究代表者：三上喜孝）





第42回 2021年9月17日

When knowledge moves with humans: Travel, mobility, and media in Asia

人と知が動くとき：アジアにおける旅、移動、メディア

Claudia Derichs (Humboldt University Berlin)

後藤絵美 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

ディスカッサント：Joanna Pfaff-Czarnecka (University of Bielefeld)

井坂理穂 (東京大学大学院総合文化研究科)



■ 第43回 2021年9月24日

動詞空所化構文の対照研究：消えた動詞を解釈する

稲葉治朗 (東京大学大学院総合文化研究科)

■ 第44回 2021年10月8日

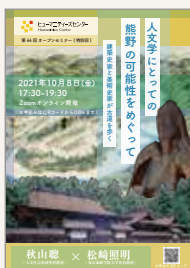
人文学にとつての熊野の可能性をめぐって

— 建築史家と美術史家が古道を歩く —

秋山聡 (東京大学大学院人文社会系研究科)

松崎照明 (東京家政学院大学)

共催：科学研究費基盤研究 (B) 18H00629「中世宝物の贈与・寄進に関する比較美術史学的研究」(2018-21年度) (研究代表者：秋山聡)



■ 第45回 2021年10月29日

(特別回) 森鷗外翻訳詩の変遷：『於母影』から『沙羅の木』へ

坂井 修一 (東京大学大学院情報理工学系研究科、附属図書館長、歌人)

コメンテーター：大塚 美保 (聖心女子大学現代教養学部)



■ 第46回 2021年11月18日

中国を深く理解する方法としての「革命—ポスト革命」

(作为深入理解中国方法的“革命-后革命”)

賀照田 (中国社会科学院文学研究所研究員)

コメンテーター：石井剛 (東京大学大学院総合文化研究科)

司会：鈴木将久 (東京大学大学院人文社会系研究科)

共催：東京大学東アジア藝文書院





■ 第47回 2021年11月26日

中世の『日本書紀』解釈における思想変動

—— 一条兼良『日本書紀纂疏』を中心に

徳盛誠（東京大学大学院総合文化研究科）



■ 第48回 2021年12月10日

ことばとことばの間——近代アジアにおけることばをめぐる模索——

井坂理穂（東京大学大学院総合文化研究科）

岩月純一（東京大学大学院総合文化研究科）

ディスカッサント：

後藤絵美（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

水野博太（東京大学ヒューマニティーズセンター）



■ 第49回 2021年12月17日

「右」も「左」もない言語と言語類型論

長屋尚典（東京大学大学院人文社会系研究科）

※特に記載のない回はHMC主催
※すべてオンライン開催



HMC Booklet シリーズ

HMCでは、人文学及び隣接諸分野に関する新たな研究協創を目指した「Humanities Center Booklet シリーズ」を刊行しています。東京大学学術機関リポジトリUTokyo Repositoryで公開中。東京大学総合図書館3階でもご覧いただけますので、ぜひお手にとってみてください。

ダウンロードは
こちらから▶



新 刊



Vol.11

シンポジウム「本郷キャンパスの形成とそれを語る学術資産」講演録

西村幸夫、藤井恵介、角田真弓、木下直之、鈴木淳

2021年7月20日発行

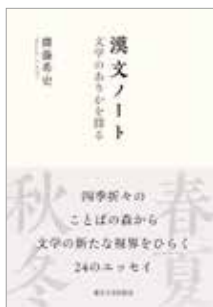
- 1 趣旨説明（鈴木淳）
- 2 「東京大学本郷キャンパスの計画とキャンパス計画室の役割」（西村幸夫）
- 3 「東大キャンパス史と建物の維持・修理そして未来」（藤井恵介）
- 4 「工部大学校由来の学術資産」（角田真弓）
- 5 「地上埋蔵文化財—そこにあっても見えないもの」（木下直之）
- 6 講演者座談会



Vol.12

画文学への招待 —口絵・挿絵から考える明治文化— 出口智之

- 1 「文学研究と美術研究の越境—明治小説の口絵・挿絵を考える」
- 2 「明治期新聞・雑誌の口絵・挿絵を考える」



HMC 教員・スタッフ新刊案内

齋藤希史HMC機構長の著作『漢文ノート 文学のありかを探る』が東京大学出版会より刊行されました。

齋藤希史『漢文ノート 文学のありかを探る』東京大学出版会、2021年。
ISBN：9784130830836／出版年月：2021年10月
ページ数：300頁／定価：2,970円（税込）

Staff 雑感

HMCにおいて、日々新たなことを学べた一年でした。自分は何も知らないのだなと落ち込むこともありましたが、それ以上に多くの刺激を受けたように思います。

（岩下弘史）

大分仕事にも慣れて、自分の研究も忙しくなってきました。現在の研究キーワードは、（オペラはもちろんのこと）漫画、死生学、4Dです。続きはHMCのTwitterで！

（笠原真理子）

HMCイベントを開催することで、ますます多彩な人文文学に魅了されています。「セミナーを連続ドラマのように期待してるよ」という口コミがたまたま耳に入って喜びました。

（祝世潔）

本学では授業を担当していないのですが、他大学で初めて非常勤講師を1年間務めることができました。様々な先生方がおっしゃる「授業準備」の大変さを思い知りました。

（水野博太）

太田泉フロランス特任研究員が次世代人文文学開発センター（東大人文熊野プロジェクト）に異動しました。門出はめでたくもあり寂しくもあり。遠からずHMCとの協働を！

（和田真生・編集）

東京大学ヒューマニティーズセンター（HMC）

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合図書館4階
ヒューマニティーズセンター事務局



<https://hmc.u-tokyo.ac.jp>



https://twitter.com/HMC_UTokyo



<https://www.facebook.com/HMC.UTokyo>